発行元　日本山岳会栃木支部　発行元住所　〒321-1262 栃木県日光市平ヶ崎 176-4　渡邉雄二方

JAC Tochigi

2010 年
4 月号【第３号】
2010(平成 22)年）５月１日発行

栃木支部報

3号

目次

p 1.　__「山の日」制定に向けて進もう！！
p 2.-8.　__2008 年度の活動の足跡
p 8.-9.　__総会・懇親会の記録
p 9.__ 支部会員名簿
p 10.__「山の日」に関連して
事務局より、あとがき

「山の日」制定にむけて
……さらに一歩踏み出そう！！

2010 年２月７日付『下野新聞』第１面に、同紙客員論説委員をされている作曲家船村徹氏の**『愛郷無限「山の日」制定を』**という提言が掲載された。ＪＡＣでは、「山の日」制定にむけての全国的な啓発運動を展開しているところであり、この提言をここに再掲したい。昨年発行の支部報第２号でも、同氏の『「山の日」をつくろう』との提言を掲載したところである。

なお同氏は今年２月に本会員となり、また栃木支部にも所属している方である。

ボロもんぺ　すきかと問えば好きだよと
笑いし母の　通夜に雪ふる

いつもつぎはぎだらけの野良着をまとい、朝も暗いうちから、背戸山につづく田畑に入り、黙もくと働いていた老母の棺の中に入れてやった、拙い私の詩歌である。

「いっぺんぐらい、東京さきなﾖ」。いくら誘っても、90 歳で世を去るまでいちども県外には出なかった。たまに私が帰ってくると、古ぼけた紙封筒を大事そうに抱えてきて、私に無理やりにぎらせ、「おまえはびんぼうなんだから、これを持ってゆけ。これだけあれば、北海道へでも九州へだって行けんだかんなｱ…」。一円玉や十円玉で、4､500 円入っているのが常だった。

そんな私の母もとうになく、雪に埋もれた山あいの墓地に眠っている。

年をとるごとに恋しく

栃木は山ぐにである。北海道生まれのまな弟子北島三郎などは、今でも「栃木の山なみが見えてくると、ほっとするんだよなｱ」と、しみじみという。

海をしらずに育った私は、若いころいち早く江の島近くに家を建て、家族たちを育てたのだが、鮭ではないが年をとるごとに故郷が恋しくなって、日光杉並木のほとりにアトリエを造り、もう 30 年近く弟子たちと暮らしている。山は春夏秋冬ゆたかに表情をかえて孤愁をなぐさめてくれる。酒もうまい。

過日、所用があり富山県へ行ってきた。魚類の豊富な富山湾を、ご当地の人たちは、天然のイケスだという。北アルプス最奥の鷲羽岳(2924 ﾒｰﾄﾙ)から湧き出る水滴が源流となって黒部川をつくり、あまたの峡谷をすべりながら、山の滋養をたっぷりと富山湾へと運んでくれる。魚たちは幸せである。

「やっぱりなｱ。山と海とは夫婦なんだよなｱ。川は子供みたいなもんさｱ」。今更ながら、しみじみと私は思った。山を見て海を見る。山がしっかりしていれば、当然美林も育つ。日本では、先祖もみなこの慣らいにしたがって生きてきた。

鬼怒川でも那珂川でも自分たちが少年のころには、もっと魚たちが跳びはねていたものだ。木を見て山も見て海も見るのだ。

美しい自然、孫子の代へ

民度の低い、へんなセクト主義なんかはかなぐり捨てて、今こそ大事な祖国の山海の共存共栄を慎思すべきである。先祖もみんな痛む五体をかばいながら、栃木の山河を慈しんで家族の絆をたしかめあってきたのではなかろうか。

おかしな拝金主義がまかり通っている昨今だが、そんな風潮など下品な者どもにまかせておいて、神仏がさずけて下さった美しい日本の大自然を磨き上げ、孫子の代へとゆずり渡してゆきたいと、つくづく思うのである。

だからこそ、「山の日」の制定が急がれる。

会　員　動　向　の　ペ　ー　ジ

1 日下田支部長、早稲田大学スポーツ功労賞を受賞

○2010 年３月 25 日、日下田支部長には、長年の功績が讃えられて、「早稲田大学スポーツ功労賞」を受賞された。
○過去の主な受賞者は、
　第１回(1982/12/13)：織田幹雄…陸上(走幅跳・三段跳)
　第２回(1984/03/25)：南部忠平…陸上(走幅跳・三段跳)
　第３回(1986/03/25)：西田修平…陸上(棒高跳)
　第９回(2009/04/01)：川淵三郎…日本サッカー協会名誉会長
など、そうそうたる顔ぶれである。
○以下、顕彰状の内容を転記する。

顕　彰　状

日下田實氏は 1930 年 6 月 27 日、栃木県芳賀郡益子町(現)に生まれた。山に囲まれた焼き物のふるさと益子で少年期を過ごし、終戦直後の真岡中学校に学んだ。同校卒業後、1948 年 4 月に早稲田大学専門部政治経済学科に入学、翌 49 年 4 月に早稲田大学第一政治経済学部自治行政学科1年に編入した。在学中は山岳部に所属し、北アルプス剱岳、穂高岳の積雪期登山を成功させるなど、当時の学生登山界をリードする登山家として活躍した。4 年次の 52 年には代表委員主将を務めるとともに、早稲田大学南米アコンカグア登山隊(関根吉郎隊長以下 6 名)に隊員として参加し、53 年 1 月、登頂を果たした。この遠征によって早稲田大学体育名誉賞を受賞している。海抜 6962 メートルの南米最高峰への登頂経験が、後のヒマラヤでの快挙に繋がることになった。

その後、日下田實氏は 1954 年に日本山岳会第 2 次マナスル登山隊への参加に続いて、56 年にはマナスル世界初登頂に成功した第 3 次マナスル登山隊(槇有恒隊長)に隊員として参加し、同年 5 月 11 日、加藤喜一郎氏(慶応大学山岳部ＯＢ)と共に 8163 メートルの頂上に立ったのである。今西壽雄氏(京都大学山岳部ＯＢ)とギャルツェン・ノルブ氏(ネパール人隊員)が前々日の 9 日、登頂したことに続くものであった。12 人の隊員中最年少だった。このマナスル世界初登頂は、エベレスト登頂(1953 年、イギリス隊)など、ヒマラヤ・オリンピックといわれた当時の 8000 メートル峰登山の中でも特筆される成果で、一連の新聞報道や記録映画「マナスルに立つ」は国民を熱狂させ、若者、少年たちを勇気づけた。終戦から 10 年余、歴史的といってよい快挙だった。

マナスル登頂から帰国した後、氏は毎日新聞社に入社し、運動部記者として活躍した。また、1960 年からは早稲田大学体育局講師として体育実技「山岳」を担当し、62 年からは山岳部監督を務めて後進の育成に当たった。その後は郷里の栃木県に戻り、益子町教育委員会委員長、県教育委員会委員長、民事調停委員を歴任して郷土の振興に貢献した。また、(社団法人)日本山岳会の評議員、常任評議員などを務めて日本登山界の発展に寄与した。1996 年、永年の民事調停委員としての貢献に対して最高裁判所長官表彰を受けた。2001 年にはマナスル登頂、調停委員の功績、地方教育への貢献に対して勲五等双光旭日章が贈られた。さらに、2006 年 12 月、ネパール登山協会に招かれてマナスル登頂 50 周年の式典に参加し、名誉顕彰を受けた。現在は日本山岳会栃木支部長を務めている。

ここに早稲田大学は、卓越した登山活動によって戦後の日本人に勇気を与えるとともに、山岳界で後進の育成に尽力した特筆すべき貢献、ならびに早稲田大学への永年にわたる多大な功績と献身に対して、日下田實氏を早稲田大学スポーツ功労者として表彰し、その名誉を永く讃えるものである。

2010年3月25日

早稲田大学

2 渡邉事務局長、国立登山研修所長として着任

○本年度末の異動で、栃木支部の渡邉雄二事務局長が国立登山研修所(正式名称は「独立行政法人日本スポーツ振興センター　国立登山研修所」)の所長として着任された。
○登山研修所は、わが国における登山の健全な発展を図るため、1967(昭和 42)年６月１日、文部省設置法施行規制の一部改正により、文部省体育局（現在の文部科学省　スポーツ・青少年局）の内部部局として設置され、2009(平成 21)年４月文部科学省から独立行政法人日本スポーツ振興センターに移管された。
○開所以来、登山指導のための研修事業・登山に関する情報提供等を行い、登山事故の防止にあたる、登山活動には不可欠な業務を行っている施設である。
○

3　桑野会員、『栃木の峠』を出版

○本支部の桑野正光会員が、今年３月に随想社より『栃木の峠―峠でたどる暮らしと文化』を出版された。帯にはこうある。
『「ふるさと栃木」の歴史と先人の思いをたどった峠の記録。人々の記憶から消えようとしている人と峠との関わりを、丹念に歩き聞き書きしまとめた初めての一冊』
『三方を山に囲まれた栃木県の峠 58 カ所を踏査。各峠とも写真、解説とわかりやすい地図を掲載し、峠歩きのガイドブックとして使えるように編集した。峠から「ふるさと栃木」の歴史が見えてくる。』
○各書店にて絶賛発売中。定価は 1,800 円＋税。
○同書中の「はじめに」から、著者の意図をさぐってみよう。

なぜいま峠か

「峠は歴史の証人」と言える。古来から日本の陸上輸送手段は、徒歩と牛馬の背が中心であった。明治になって近代化政策が進められる中、大量輸送の必要から馬車が通り、さらに大正から昭和にかけて陸上輸送の中心が自動車に代わるとともに、峠は急激に変化した。徒歩の時代、谷筋を真っ直ぐに上り下りした峠道は、車道になると、「みち」から「道路」と呼ばれるようになり、傾斜を緩くするために大きくカーブし、切り通しとなり、場所によってはトンネルが掘られた。

戦後の高度経済成長時代には、大量でしかも高速輸送が不可欠となり、改修が一層進んで、古い自動車道路のさらにその下に長大なトンネルが掘られ、大型車が真っ直ぐになった峠道を疾駆していく。こうなると旧道の峠は、草に埋もれ、土砂に流されて、道型もなくなり、廃道となって、地図からも消えてしまう。峠道が廃道になると、峠で結ばれていた麓の集落は時代に取り残され、やがて人と人との繋がりが薄れ、かつて共有していた峠の神々も双方の集落から忘れ去られてしまう。

峠は、時代の盛衰とともに、時々の政治・経済や文化などと深い関わりを持ちながら地域の歴史とともに歩んできたが、今まさに時代の波の中に埋没し、人々の記憶から消えようとしている所が多い。このまま地図の上からも消滅してしまえば、峠とともに歩んできた日本人の精神や文化も失うことになる。

今、忘れ去られようとしている峠を記憶しておくことは、地域史にとどまらず、栃木県の歴史や文化の確認にもなる重要なことと思われる。

4　沖会員、６月末にマリ峰遠征に出発

○すでに栃木支部総会開催の案内書でもお知らせしたように、本支部の沖允人会員が、今年６月末から８月初旬に、インド・ラダック、パンゴン山脈のマリ峰(6587m)登山隊の隊長として遠征に出掛けることになった。隊員の２名(茂呂貞夫・竹澤雄三両氏)も本県の岳友である。
○役員会で協議した結果、本支部は同登山隊を後援することになった。支部あげて初登頂、安全登山を祈念いたしましょう。
○以下、登山計画の概要をお知らせしましょう。

1　名　称　　中京山岳会・マリ峰登山隊 2010
2　主　催　　中京山岳会 ： 後援・日本山岳会・栃木支部
3　目　的　　マリ峰 (6587m) 初登頂・パンゴン山脈・ラダック・カシミール州
4　構　成　　登山隊　隊長１名　沖允人(ｵｷ ﾏｻﾄ)(03/01/1935)
　　隊員２名:茂呂貞夫(ﾓﾛ ｻﾀﾞｵ)(01/04/1939)・竹澤雄三(ﾀｹｻﾞﾜ ﾕｳｿﾞｳ)(17/04/1942)
　インド政府連絡官１名　ガイド１名　クライミングシェルパ３名　コック１名　キッチンボーイ２名
5　期　間　　2010 年 6 月 27 日～8 月 12 日(46 日間)
6　経　費　　総額　　一人 80 万円
7　環境保全　IMF（インド登山財団）の環境保全規約を遵守する
8　登山本部　〒326-0808　栃木県足利市本城 3-3905-7-703 携帯電話 090-1698-8165
　　TEL.& FAX. 0284-21-9030　E-mail: okim95@aol.com and oki@ashitech.ac.jp
9　装備・食糧　別詳細紙
10 実行委員会：委員長：梶田明、副委員長：織田善夫(留守事務局)
　　中京山岳会・〒461-0011 名古屋市東区白壁 1-27-3-405　織田義夫　携帯電話 090-7695-4356
　　委員(留守責任者):粂川章(ｸﾒｶﾜ ｱｷﾗ)
　　321-0233 栃木県下都賀郡壬生町助谷 947　電話 0282-86-3404　E-mail: jwqwt095@yahoo.co.jp
11 現地エージェント: Rimo Expeditions PVT.LTD (Mr.Mutop Chewang)（リモ社・ムトップ）
　　229, DLF Galleria, DLF Phase IV, Gurgaon-122002, HARYANA, INDIA
　　Tel : 0124-2806072 to 29　日本からの場合 91-124-のようにかける。
　　Fax:+91-124-280030　E-Mail : info@rimoexpeditions.com
12 日程概要
　27th June: Main Party, Tokyo, Narita-Air-New Delhi
　28th June: Stay New Delhi, IMF Briefing, etc.
　29th June : New Delhi-Leh (3500m)
　30th June-1st July: Leh, stay
　2nd July: Leh(Jeep)-Chang La (5250m)-Tangtze(4000m)-Arrive Kongma(4300m)
　3rd July:Establish BC(4300-4600m)
　4th-7th July: Establish C1(5000-5100m)
　8th-11h July :Establish C2(5700-5800m)
　12th-29th July: Climbing and Ascent Mt.Mari(6587m)
　30th July: Kongma-Tangtse-Chang La-Leh
　31st July-8th August stay, Leh
　9th August: Leh-Air-New Delhi
　10th August: stay, New Delhi
　11th August: New Delhi-Night flight-for Tokyo-
　12th August: Tokyo, Narita

2009 年度の活動の足跡

第１回役員会

日　時：2009 年４月 11 日(土)14:00～15:00
場　所：日光湯元温泉『湯の湖荘』
参加者：役員 10 名中９名

○「講演と春山登山」に先立って、14:00 より役員会が行なわれ、支部総会議案・会報第３号・ホームページ等に関してについて協議した。
○さらに①２月の三支部合同懇親会、②全国事務局担当者会議、③春山登山等の役割分担、④山の日プロジェクト委員会、⑤支部旗樹立の報告があった。

講演と春山登山

日時:2009 年４月 11 日(土)～12 日(日)
場所:日光湯元温泉『湯の湖荘』、切込湖･刈込湖
参加者：会員 19 名＋ゲスト２名
　日下田、山野井、森、沖、小島、井上、渡邉、坂口、牛窪、前田文、石沢、上田、中村、関根、吉田、神島、長、北見、麦倉＋神長善次、沖道子
行動概要
4/11(土)：【役員会 14:00～15:00】、現地集合 15:00…開会行事 15:30～…講演会(伊藤誠氏「湯の湖荘」主人)演題「奥日光の自然の変化」16:00～17:30…懇親会 18:30～
4/12(日)：朝食後、切込湖･刈込湖への登山 8:00～15:00。17 名参加。下山口は山王峠を経て光徳へ。下山後『湯の湖荘』で入浴、日光駅にて解散。

○4/11(土)「湯の湖荘」に集合、日下田支部長の挨拶後、講師の伊藤氏到着までの間、参加者からの近況報告などがあった。初めて支部旗が掲げられた。
○伊藤氏の講演は、参加者にとっては目から鱗のことも多く、大変勉強になった。奥日光で生活をしている地元の人ならではの話を聞かせていただいた。特に奥日光の今の姿を維持するには、シカの駆除は待ったなしだという話は、説得力があった。奥日光の自然を子々孫々まできちんと残していけるよう、氏の今後ますますのご活躍を祈念している。
○入浴後、懇親会を開催、各自の近況報告などを交え、宴会場を模様替えしての二次会まで楽しませていただいた。
○翌12日(日)は8:00に湯の湖荘前で記念撮影後、切込湖･刈込湖を目指して総勢１７名で歩き始めた。湯元の源泉を横目に国道までの急登に皆さん体を温め、登り終わって最初の充実感を味わった。そこで息を整えた後、雪道で高度を稼ぎ１時間ほどで小峠にて休憩。その後刈込湖に向けて下りる。この辺から残雪で歩行がおぼつかないが、目的地目指して進む。ようやく眼下に氷で覆われた刈込湖の姿が見えてくる。さらに雪が不安定になる。瓢箪のくびれを越えて、切込湖を眼下に眺めながら雪道を進み、ようやく涸沼に着く。昼食を取る。空は青空が広がり、湿気も少ないため、山々が実に色鮮やかに見られる。涸沼から山王峠までの急登をようやく登り切り、林道をのんびり歩いて光徳に14:00に戻る。湯の湖荘に戻り、温泉に浸かって疲れをいやし、それぞれ帰途についた。

初めて支部旗をお披露目する！

講師の伊藤誠氏

宴会で大いに盛り上がる

4/12(日)準備完了、いざ出発！！

ドピーカンの快晴で、残雪が眩しい

第２回役員会

日　時：2009 年５月 24 日(日)15:00～16:00
場　所：宇都宮市『コンセーレ』
参加者：役員 10 名全員

○総会を前にして直前準備を行う。それに先だって、栃木県山岳連盟の自然保護担当者と「日光清掃登山」について協議した。本支部は、切込湖･刈込湖コースの担当となった。

総会、並びに懇親会

日　時：2009 年５月 24 日(日)16:00～19:00
場　所：宇都宮市『コンセーレ』３F 会議室
参加者：総会に 24 名、懇親会に 23 名

○総会に先立ち支部旗樹立式を行った。支部設立３年目を迎え、この支部旗の下に支部会員がさらに友情を深め充実した活動ができるように、との日下田支部長の挨拶があった。
○総会は、(財)栃木県青年会館理事長横山陽一氏を来賓に迎え、会員２４名が出席して行われた。
○神島委員の進行で始まり、日下田支部長からは、前日の全国支部長会議と総会の報告を交えての挨拶があり、新会長に尾上昇氏が選任されたこと、若い会員の獲得のための方策等に言及された。
○続いて来賓の横山氏からは、100年余の歴史を持つ本会の活動に今後とも支援していただける旨の挨拶をいただいた。

5/24(日)総会での日下田支部長挨拶

懇親会、なごやかな中に酒量も進む

○議長に前田委員を選出し、議事に入る。平成 20 年度事業報告(渡邉事務局長)・同決算報告(石澤委員)及び監査報告(坂口監事)・平成 21 年度事業計画案(渡邉事務局長)・同予算案(石澤委員)が提案され、全議案ともに全会一致で承認された。続いて役員改選が行われ、現役員が全員留任することになった。なお、総会資料とともに「栃木支部報第２号」(平成 21 年４月１日付) が配布され、神島編集委員長より山行記録や随筆等を寄稿されるようにと依頼があった。その後総会出席者が一人一言の近況報告を行って、総会は無事終了した。
○会場を２F バンケットホールに移して、17:00 より懇親会となる。進行は石澤委員が行う。会員 23 名が参加、情報交換を行うとともに近況報告があり、終始なごやかに歓談が続いた。
○詳細は、後述する総会記事を参照されたい。

日光清掃登山(栃木県岳連との共催)

日　時：2009 年７月４日(土)、５日(日)
場　所：日光湯元ｷｬﾝﾌﾟ場、刈込湖･切込湖他
参加者：前夜祭７名､清掃登山 11 名
【全体では 208 名が参加】
行動概要：7/4(土)18:00～前夜祭
7/5(日)開会式 7:00､湯元発 7:50…小峠 8:30～8:50…刈込湖 9:20～9:40…涸沼 10:45～11:15…山王峠 11:45～11:50…光徳 12:40～12:55＝湯元 13:15､解散

○栃木県山岳連盟の行事であるが、本支部も共催団体として参加。前夜祭には７名の会員が参加、本支部を代表して沖監事が挨拶をした。手作りのつまみや飲み物がふんだんに用意されていて、楽しい時を過ごした。
○翌日はビジターセンター前で開会式後、本支部会員は刈込湖・切込湖コースに入った。会員 11 名と一般の参加者４名が行動を共にした。ゴミは殆ど見当たらず、自然を楽しむことができた。湯元で無料入浴のサービスを受け、解散した。

本支部会員、一般参加者、それに大田原高校山岳部のフレッシャーズも揃って記念写真

第３回役員会

日　時：2009 年７月 26 日(日)16:00～16:45
場　所：宇都宮市『コンセーレ』
参加者：役員 10 名中８名

○同日実施の「山岳映画の夕べ」を前に、役割分担等の最終打合せを行う。また夏山登山や今後の行事予定について協議した。
○さらに①支部総会・懇親会、②支部通信発行(№13)、③会費納入状況、④新会員【内間茂(14626)】の紹介、④清掃登山、⑤本部関係【全国支部懇談会の案内､年次晩餐会イベント】等の報告があった。

第２回山岳映画の夕べ (本支部とコンセーレとの共催事業)

日　時：2009 年７月 26 日(日)17:00～19:00
場　所：宇都宮市『コンセーレ』アイリスホール
映　画：「ナンダ・コット征服」1936 年(30 分)
　　「花嫁の峰･チョゴリザ」1958 年 (75 分)
講　演：羽田栄治氏(日本山岳会資料映像委員長)
　　「スクリーン登山を楽しむ」
参加者：支部会員 21 名、コンセーレ学習セミナー会員､一般の方(71 名)等、合計 92 名

○本支部の公益事業として、会場となったコンセーレとの共催で、同所アイリスホールで開催した。
○山野井副支部長、横山青年会館理事長の挨拶後、羽田栄治講師から「スクリーン登山を楽しむ」と題した講義を拝聴した。山岳映画は、劇場の大型スクリーンで鑑賞してこそ、その迫力にのめりこみ、自分も実際に登山をしているかのような感動を味わうことが出来ると力説された。また現在好評上映中の「剣岳点の記」の映画にも触れ、ご自身もこの映画の制作に携わったことを踏まえて、史実と小説の違い云々よりも、大画面で映画を楽しむという視点が大切であると話された。

ご自身の経験を踏まえての講義はとても説得力がある。若々しくて元気いっぱい！！

○「ナンダ･コット征服」1936 年､モノクロ 30 分
日本登山史上初めてのヒマラヤ登山の記録映画を鑑賞した。堀田弥一隊長の下、立教大学隊によるインド・ヒマラヤのナンダ・デビィ山群南方の6867m峰の初登頂記録である。戦前のヒマラヤ登山の記録映画なので、画質そのものは劣化しているが、ナレーションなど当時を偲ぶことの出来る貴重な映像であった。隊長の堀田氏も100歳を迎え、先日立教大学関係者によるお祝いの会が催されたそうだ。
○「花嫁の峰･チョゴリザ」1958年､カラー75分
京都大学学士山岳会によるカラコルム山脈のチョゴリザ7654mの初登頂の記録映画である。ヘルマンブールの最後のテントの映像や、彼の遺品をベースキャンプに訪ねてきたボニントン氏に引き渡すシーンなど、登山史上の貴重な映像も含まれており、登山愛好家には必見の作品と感じた。また「ナンダ・コット」の映像と比較してみると、20余年間の映画の技術の進歩も感じ取ることが出来た。
○映画会終了後、19:10から恒例のビアパーティをコンセーレ内「タイムズスクウェア」で開催し、講師の羽田氏を囲んで約１時間30分の懇親会を実施した。22名が参加、映画の話や近況交歓などで楽しい時間を持つことができた。

参加者全員が熱心に講義を傾聴している！！

第４回役員会

日　時：2009 年８月 29 日(土)16:30～17:30
場　所：奥鬼怒温泉郷『加仁湯』
参加者：役員 10 名中８名

○夏山山行後、疲れをいとわず役員会を行う。那須岳クリーンキャンペーン・ヒマラヤの集い・秋山山行・秋季講演会・沖会員の遠征計画の扱いについて協議する。
○また①会費納入状況、②入会手続き者【杉田茂久(14646)､早川和子(14650)､山口富蔵(14652)､石井シモ子(14656)】の紹介、③本部関係【全国支部懇談会､支部長・事務局長会議】等の報告があった。

夏山山行・懇親会

日　時：2009 年８月 29 日(土)～30 日(日)
場　所：奥鬼怒温泉郷 加仁湯、根名草山、鬼怒沼
参加者：会員 18 名、その他５名の計 23 名
行動概要：
8/29(土)：
〇Ａコース：山野井、牛窪(横山輝夫・大陸)、山本、上田、長、仙石、渡邉、神島(10 名)
金精峠Ｐ8:20…金精神社 8:50…念仏平小屋 11:00～11:30 …根名草山 12:15～12:50…加仁湯 15:30
〇Ｂコース：日下田、小島、坂口、北見、前田(文彦・洋子)、(藤田礼子)、森、乾、中村、関根、菱田、(山口伸一)(13 名)
女夫淵温泉 P13:50…加仁湯 15:15
18:00～ 懇親会
8/30(日)：宿 7:500…鬼怒沼 10:45～11:40…宿 13:55、入浴その後宿のマイクロバス乗車＝＝女夫淵Ｐ、同所にて解散 15:00

〇8/29(土)：Ａコース【金精峠から根名草山を経て加仁湯へ】の 10 名は、7:00ＪＲ日光駅集合。山野井車・渡邉車に分乗して金精トンネル入口駐車場へ。同発 8:20。高曇りである。最初の１ピッチから急登である。金精神社で小休止(8:50～9:05)。霧雨模様の天気で、眺望はあまりない。このところの雨不足のせいか、途中にある水場の流れも殆どない。念仏平避難小屋にて昼食をとる(11:00～11:30)。肌寒いと思ったら気温は 15℃しかない。出発間際に雨脚が目立つようになり、合羽や傘の用意をする。順調に高度をかせぎ根名草山に着く。みんなで記念撮影をする(12:15～12:50)。気温 11℃。雨はあがったが見晴らしはあまりない。ここからはひたすらの下りである。途中１回の小休止をとり、加仁湯着 15:30。

根名草山頂にて。残念ながらガスの中！！

〇8/29(土)：Ｂコース【女夫渕温泉から加仁湯へ】の 13 名は、東武鬼怒川温泉駅集合 12:00。５台(小島車・北見車・前田車・森車・山口車)に分乗して女夫渕温泉駐車場へ。鬼怒川源流沿いのハイキングを楽しむ班・宿のバスに乗る班に分かれて出発。15:15 加仁湯着。

〇16:30 より役員会を行い、今後の行事について協議する。18:30 より大広間にて懇親会を催す。各種の秘湯を満喫した後だけに酒量はあがる一方である。一人ひとりの近況報告もあって大いに盛り上がった。いつの間にか外は雨音が強まり、明日の天候が思いやられる。多くの動物の剥製や熊の敷き皮のある囲炉裏端で二次会を行なう。

〇8/30(日)：【加仁湯から鬼怒沼往復(19 名)】。(３名は温泉三昧、１名は日向オソロシの滝ハイキング)
7:00 より朝食。7:50 加仁湯発。気温は 13℃ほどであるが、昨晩の雨上がりの後なので、湿度 100%といった状態の中での登山となる。途中４回ほど小休止をとりながら登り、最後は緩やかな登りのあと、一気に視界が開けて鬼怒沼に着く。昨年ちょうど工事中だった木道とともに、今年になって敷設された真新しい木道もある。数箇所のベンチに分かれて昼食をとる(10:45～11:40)。一時晴れ間も見えたが、すぐに曇ってしまう。それでもわずかに燧岳も見える。ベンチに一列になって記念写真を撮る。その後下山し、加仁湯着 13:35。入浴後、宿のバスで加仁湯を出発(14:25)、女夫渕温泉駐車場へ。支部長挨拶後、無事解散した(15:00)。

鬼怒沼への急な階段を上る坂口会員

鬼怒沼の湿原の中のベンチに腰掛けて記念撮影

那須岳クリーンキャンペーン（栃木県山岳連盟との共催）

日　時：2009 年９月５日（土）、６日（日）
場　所：那須岳登山事務所、那須岳周辺
参加者：坂口、森、小島、仙石、稲葉、猿山、渡邉会員らが参加

○栃木県山岳連盟の行事であるが、本支部も共催団体として参加、上記の会員が清掃活動にあたった。

第５回役員会

日　時：2009 年 10 月 18 日（土）15:00～15:40
場　所：宇都宮市『コンセーレ』
参加者：役員 10 名中８名

○「ヒマラヤの集い」の前に集合し、会合の進め方等について、さらには秋季講演会、新年会・冬山山行、３支部合同懇談会について打合せを行う。
○また①会費納入状況、②入会手続き者【増渕仁一（14667）の紹介、③本部関係【山陰支部創立 60 年記念行事】等の報告があった。

第１回「ヒマラヤの集い」講演会（本支部とコンセーレとの共催事業）

日　時：2009 年 10 月 18 日（土）16:00～17:30
場　所：宇都宮市『コンセーレ』
参加者：本支部会員 22 名と一般 28 名、計 50 名
講　師：天野和明氏（登山家、明治大学山岳部 OB）
演　題：「ピオレ・ド・オール」と私の登山

○本支部の公益事業として，会場となったコンセーレとの共催で開催した。
○2008 年９月、インド･ヒマラヤのカランカ峰（6931ｍ）北壁の登攀に天野氏ら３名の日本隊が初めて成功した。この北壁は、これまで英米の登山隊が挑戦してきたが、最大斜度 80 度の雪氷壁と岩壁の難ルートであり、悪天候の山でもあるため行く手を阻まれてきた。この難壁を少人数のアルパインスタイルで攻略した登山が評価されて、アジアでその年の最高の登山隊を表彰する第３回「ピオレ・ド・オール・アジア」を、2009 年４月には第 17 回「ピオレ・ド・オール」を受賞した。また、2009 年夏には同じメンバーで、カラコルム・スパンティーク峰（7027m）北西壁ゴールデンピラー初登ラインをアルパインスタイルで登攀に成功した。
○この２つの登山報告を、スライドショーを交えて話されたが、手に汗握るといった臨場感あふれるお話で、自分がそこにいるかのような錯覚に陥るほどであった。
○講演終了後、講師を囲んでの懇親会をコンセーレ内「タイムズスクウェア」で開催し、会員と関係者 16 名が参加し、刺激的な登山の話題に大いに盛り上がったことであった。

スライドショーを交えながらの天野氏の講演

参加者全員が講演に引き込まれている！！

ピオレ・ド・オールとピオレ・ド・オール・アジア

懇親会でも先鋭的な登山に話しが盛り上がる！！

秋山山行

日　時：2009 年 10 月 31 日(土)
場　所：禅頂行者道を歩く
　　細尾峠、薬師岳、夕日岳
参加者：日下田、森、沖、小島、渡邉、坂口、牛窪、前田洋子、山本、上田、仙石、中村、菱田、北見、猿山、麦倉、早川、石井　総勢 18 名
行動概要
　JR 日光駅 7:15＝細尾峠
〇Ａコース：細尾峠より夕日岳往復
〇Ｂコース：細尾峠…薬師岳…滝ヶ原峠

〇ＪＲ『日光駅』に７：１５集合し、車に分乗して細尾峠へ。Ａコースは細尾峠から夕日岳往復、Ｂコースは細尾峠から薬師岳を経て滝ヶ原峠へ。下山後は全員で和の代の『やしおの湯』で汗を流し、『日光駅』で解散した。天候に恵まれ、1000ｍ付近の紅葉は素晴らしいものだった。

薬師岳山頂(1420m)。みんな元気だね！！

細尾峠で記念写真撮影

第６回役員会

日　時：2009 年 11 月 28 日(土)14:00～
場　所：宇都宮市『コンセーレ』
参加者：役員 10 名中　名

〇秋季講演会の直前打合せを行なうとともに、冬山山行・三支部合同懇談会等の行事予定等について話し合った。

第３回秋季講演会
(本支部とコンセーレとの共催事業)

日　時：2009 年 11 月 28 日(日)15:00～17:00
場　所：宇都宮市『コンセーレ』
参加者：本支部会員 18 名と一般 32 名、計 50 名
講　師：中山珖一氏(志村烏嶺研究の第一人者)
演　題：「山岳宗徒志村烏嶺について」

〇本支部の公益事業として，会場となったコンセーレとの共催で開催した。
〇宇都宮市在住で、栃木県歴史文化研究会員の中山珖一氏を講師に招いて、本県烏山出身の旧制中学教師であり、明治･大正･昭和の激動の時代に、植物研究家･山岳写真家･登山家として活躍した志村烏嶺(本名:志村寛､1874-1961)について講演をいただいた。詳細な略年譜･貴重な写真･出版した書籍を紹介しながら、志村烏嶺の人となりを語っていただいた。中山氏によれば志村烏嶺は「山岳宗徒」であると言う。山に対して謙虚・畏敬の念を持ち、山の素晴らしさを世に知らしめ、山を愛するという岳人を育てる「山岳宗」の宗徒であったと言う意味である。詳細は中山氏の著作『山岳宗徒烏嶺小伝』に詳しい。機会があれば是非ご一読のほどを。
〇皆さんご承知のように、志村烏嶺の撮った写真が、日本を訪れていたウォルター・ウェストンの目にとまり、彼はこの写真を小島烏水を通して譲り受けた。そしてこの写真は『アルパイン・ジャーナル』第23巻に掲載され、日本アルプスが初めてヨーロッパに紹介されることになった。また1906年４月発行の日本山岳会機関誌『山岳』第１号の巻頭写真「白馬大雪渓」も志村が撮影したものであるそうだ。
〇講演会後、懇親会に場を移して絆を深めた。

本県出身の先達を紹介してくださった
お話しに、参加者全員が聞きほれました。

懇親会でも貴重なお話を伺いました。

新年会・冬山山行(日光)

日　時：2010 年１月 23 日(土)～24 日(日)
場　所：茨城県奥久慈温泉、男体山
宿　舎：リバーサイド奥久慈『福寿荘』
参加者：宿泊者21名、24日のみ参加者２名
1/24(土)：道の駅「もてぎ」＝石澤会員宅＝袋田の滝＝奥久慈『福寿荘』、坂口監事による報告会…新年会
1/25(日)：朝食後､出発 8:00…男体山…、＝道の駅「奥久慈だいご」＝「風車の弥七」の墓＝石澤会員宅、解散

○1/24(土)：宇都宮駅と道の駅「もてぎ」で待ち合わせて、御前山の石澤委員宅に全員集合。不要な車を石澤宅の駐車場に置かせていただき、袋田の滝見学へ。暖冬の影響で氷結の具合はいまひとつだが、観光客は結構な数であった。宿舎に入り、入浴後、坂口監事による「シルクロード遺跡の旅」の報告を拝聴した。ホータンからニヤ遺跡方面の未開放地区の旅であり、スタインの探検した地域でもある。彼の著書『中央アジア踏査記』や『砂に埋もれたホータンの廃墟』に詳しいが、写真などを拝見し楽しく興味深く拝聴させていただいた。その後宴会場に移り、恒例の新年会を開催し、いつものことながらその後の二次会まで大いに盛り上がった。
○1/25(日)：宿舎を発8:00、男体山を登山、途中の岩場など適度な緊張感を味わい、山頂から奥久慈の展望を楽しんだ。帰路は、道の駅「奥久慈だいご」で入浴、「風車の弥七」の墓に詣でたのち、石澤委員宅で解散となった。石澤宅では、奥様から美味しいコーヒーとケーキをご馳走になり感謝でした。

「シルクロード遺跡の旅」を報告する坂口監事

男体山頂に集いし会員諸氏

第３回・三支部合同懇談会

日　時：2010 年２月６日(土)～７日(日)
場　所：茨城県つくば市国土地理院
　　筑波温泉ホテル『一望』
参加者：総勢 53 名、本支部から日下田､山野井､森､沖､小島､渡邉､坂口､山本､乾､上田､仙石､吉田､神島の 13 名
行動概要
2/6(土)：県内各地より国土地理院集合､館内案内 14:00～16:00＝ホテル『一望』16:30､新年会・懇親会 18:00～20:30
2/7(日)：宿舎発 8:00…筑波山 11:20…宿舎 15:00＝それぞれで岐路につく

○2/6(土)：県内各地より国土地理院集合後、院内の説明を受け、展示物等を見学する。茨城支部長星埜氏のかつての職場であり、大変お世話になった。こんな素晴らしい施設を無料で見学・体験できることにびっくり。その後、筑波山の登山口の宿舎に入り、恒例の懇談会となった。
○2/7(日)：翌日は、筑波山神社で特別祈祷を受け、歩き組とケーブルカー組に分かれて筑波山登山。数日前に降雪があったので、珍しい雪の筑波山登山を楽しんだ。素晴らしい天気に恵まれ、山頂からは富士山はもとより、那須・日光の山々の展望を楽しんだ。昼食は名物の筑波山うどんに舌鼓。茨城支部の皆様にはすっかりお世話になりました。来年は本県主催で、2/12(土)～13(日)、日光市内のホテル「春茂登」を会場に、鳴虫山登山や世界遺産の見学を予定している。１年先のことですが、ご予定下さい。

筑波山神社前に集合した本支部の参加者

筑波山山頂。快晴で気持ちいい！！
珍しいことに雪の筑波山でした。

るお祝いの言葉があった。

○続いて沖会員より2008年6-7月、インドヒマラヤ・ザンスカール登山隊の報告があった。当初目指したのは、インド・カシミール州パンゴン山脈のマリ峰(6587m)であったが、中国との国境問題がからんで、国防上の理由で登山許可がおりず、当初目標とした山域に入ることができなかった。そこでザンスカールのＺ３(6270m)に変更して登山活動を続けたが、登頂はならなかった。しかし、付近の無名峰(5800m)に登頂して帰国したそうだ。しかし大変興味深い話が聞けた。また、沖会員の同山域の研究にも素晴らしいものがあった。今後とも活躍を期待したい。

○午後６時より食堂にて夕食を兼ねた懇親会を実施。施設の決まりで１時間しか食堂が使えないので、続きは研修室へ移動して、消灯時間の10時まで大いに盛り上がった。

○1/25(日)　朝食後、車で山内の滝尾神社に移動。四輪駆動車に分乗して、稲荷川林道を行く。8:30早川谷入り口から入渓、暖冬と数日前の降雨で谷筋の積雪も例年より極端に少ない。友知らずからのゴルジェの氷の発達も極端に小さく、迫力に欠ける。雲竜瀑下で梶谷会員らのアイスクライミングを眺めながら昼食(11:00-11:30)。無風快晴、春のような陽気の中での一日を過ごした。往路を滝尾神社へ戻り、解散となった。

三支部合同懇談会

日　時：2009 年２月７日(土)～８日(日)
場　所：千葉県南房総市 民宿『治郎吉』
参加者：本支部から日下田、山野井、森、沖夫妻、井上、牛窪、臼田、乾、渡邉、神島の 11 名、本部から神崎副会長、千葉支部 28 名、茨城支部 8 名の合計 48 名
行動概要
2/7(土)：16:00 から各支部長挨拶、その後情報交換。近くの温泉で入浴。18:30 より夕食･懇親会
2/8(日)：三つの班に分かれて行動

○2/7(土)　昨年の第１回合同懇談会は日光で開催されたが、今年は千葉支部が担当で、内房岩井にある民宿『治郎吉』で開催された。宿を出て二分とかからずに海岸に出るという立地のよさで、翌朝には潮の香をたっぷり含んだ海風にあたりながら、はるか対岸の三浦半島を見やることができた。18:30 からの夕食･懇親会には太平洋の美味しい魚介類(アワビ・サザエ・ハマチ・イナダ等)をふんだんにいただいた。

○2/8(日)　朝食後、富山登山班・鋸山登山班・鋸山ロープウェイ班に分かれて行動した。さすがに房総は暖かくて、吹く風も肌に優しい感じがした。

○来年は茨城支部が担当で、２月の第１土日に開催される予定である。

平成 20(2008)年度
総会・懇親会の記録

日時：2008(平成 20)年５月 24 日(日)
総　会　　16:00～
懇親会　　17:00～
場所：コンセーレ【(財) 栃木県青年会館】

◇◇総会次第◇◇

進行：石澤　好文

1. 開会の言葉　山野井　武夫
2. 支部長挨拶　日下田　實
3. 来賓祝辞 (財)栃木県青年会館理事長　横山　陽一様
4. 議長選出　議長：前田　文彦
5. 議事
   (1) 平成 19 年度事業報告について　渡邉　雄二
   (2) 平成 19 年度決算報告について　石澤　好文
   (3) 監査報告　坂口　三郎
   (4) 平成 20 年度事業計画(案)について 渡邉雄二
   (5) 平成 20 年度予算(案)について　石澤　好文
   (6) その他
6. 出席者自己紹介
7. 閉会の言葉　小島　守夫

◇◇懇親会次第◇◇

進行：神島　仁誓

1. 開会の言葉　山本　武志
2. 支部長挨拶　副支部長　山野井武夫
3. 乾　杯　坂口　三郎
4. 懇　親 (会員によるスピーチ)
5. 閉会の言葉　渡邉　雄二

※なお議事については、全て原案通り承認されました。

栃木支部役員

◇◇栃木支部役員◇◇

支 部 長	日下田　實	(4146)
副支部長	山野井 武夫	(4633)
委　　員	小島　守夫	(6189)
	渡邉　雄二	(7914)(事務局長)
	前田　文彦	(8432)
	石沢　好文	(9265)(会　　計)
	山本　武志	(9350)
	神島　仁誓	(14438)
会計監事	沖　　允人	(5346)
	坂口　三郎	(7973)

平成 20 年度事業計画

1	栃木支部報第１号発行	H20･04･01
2	春山登山と講演会	H20･04･12～13
3	平成 20 年度総会	H20･05･24
4	日光山系清掃登山	H20･07･06
5	第１回山岳映画の夕べ	H20･07･12
6	夏山山行・懇親会	H20･08･30～31
7	那須岳クリーンキャンペーン	H20･09･07
8	ヒマラヤの集い(ｼｪﾙﾊﾟを囲んで)	H20･10･?
9	秋山山行	H20･10･?
１０	第２回秋季講演会	H20･11･?
１１	新年会・冬山山行	H21･01･?
１２	三支部合同懇談会	H21･02･07～08

平成 20 年度予算

Ⅰ収　入　２６０，０００円

(内訳)支部会費　80,000 円(@2,000 円×40 人)
助 成 金　87,500 円(@2,500 円×35 人)
繰 越 金　91,085 円
雑 収 入　 1,415 円

Ⅱ支　出　２６０，０００円

(内訳)通 信 費　40,000 円(総会,支部通信の郵送費等)
事 業 費 100,000 円(講演会･支部だより等)
会 議 費　40,000 円(総会,集会の会場費等)
消耗品費　50,000 円(事務用品等)
予 備 費　30,000 円

Ⅲ残　額　　０円

支部会員名簿

【2009(平成 21)年３月 31 日現在】

No.	会員番号	氏　名	備　考
1	4146	日下田　實	支部長
2	4255	堀越　利男	
3	4633	山野井 武夫	副支部長
4	4661	森　元一	
5	5201	松井　芳隆	
6	5346	沖　允人	監事
7	5394	田崎　伸一	
8	6189	小島　守夫	委員
9	6322	小材　守志	
10	6956	井上　孝郎	
11	7075	平野　昭夫	
12	7386	柳澤　隼人	
13	7914	渡邉　雄二	事務局長
14	7973	坂口　三郎	監事
15	8383	前田　洋子	
16	8386	牛窪　光政	
17	8432	前田　文彦	委員
18	9265	石沢　好文	委員
19	9267	臼田　徳雄	
20	9307	佐藤　清衛	
21	9350	山本　武志	委員
22	9921	乾　能尚	
23	10416	上田　景子	
24	10459	仙石　冨英	
25	10885	蓮實　淳夫	自然保護
26	10909	中村　靖弘	
27	11381	関根　和男	
28	11402	渡辺　剛	
29	12503	菱田　克彦	
30	13906	吉田　春彦	
31	14400	梶谷　博	
32	14419	斎藤　隆	
33	14438	神島　仁誓	委員
34	8282	上野川 孝一	
35	12466	長　百合子	
36	14475	北見　正光	
37	14483	東　和之	自然保護
38	14509	柏村　祐司	
39	14510	桑野　正光	
40	14518	猿山　浩	「山の日」
41	14527	稲葉　昌弘	
42	14529	麦倉　常治	「山の日」
43	14536	後藤　尚	「山の日」

「山の日」に関連して

○自治体のなかには、すでに「山の日」、あるいはそれに類する日を設けて活動を行なっているところもある。その主なものをあげてみよう。

①山形県
「やまがた　森の日」……６月の第１土曜日

②山梨県
やまなし「山の日」……８月８日

③岐阜県
「ぎふ山の日」……８月８日

④滋賀県
「びわ湖水源もりの日」…10 月１日

⑤大阪府
おおさか「山の日」……11 月の第２土曜日

⑥和歌山県
「紀州・山の日」……11 月７日

⑦奈良県
「山の日・川の日」……７月の第３月曜日

⑧愛媛県
「えひめ山の日」……11 月 11 日

⑨高知県
「こうち山の日」……11 月 11 日

⑩四国４県
「四国山の日」……11 月 11 日

○民間でも設定しているところがある。

①日本アルパイン・ガイド協会
「登山の日」……10 月３日

②鳥海山の会
「鳥海山の日」……５月 11 日

○群馬県の県会議員のなかには、「山の日」制定に向けた活動を積極的に行なっている議員がいて、すでに平成 16(2004)年９月の県議会で国に対して意見書を提出することが議決され、実際に国に提出されたようである。また、長野県からもすでに意見書が提出されているとのこと。

○本支部にも「山の日」制定にむけた活動を担当する会員が前ページのように任命されている。意欲的な活動が期待されるところである。

○祝日は、「祝日法」によって定められているので、最終的には国が決定することになる。

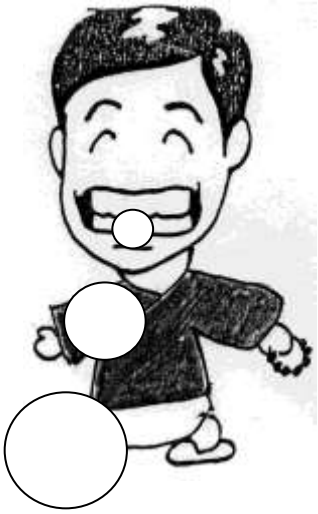
○制定されたら、「モリゾー」と「キッコロ」もきっと喜ぶぞー！！

事務局より

○「ちょっと一服！！」のコーナーはお休みしました。あしからず。

○支部報の作成には、実は本当のところ、小声で言うと、そのー、ちょっと苦労しています。原稿や写真を寄せていただくと大変有り難いのです。個人山行の文・写真、ご自分でこだわって調べていること、新しい企画の提案等々、奮ってご提出下さい。みなさんのご協力によって、初めて成り立つ支部報です。よろしくお願いします。

○支部のＨＰを立ち上げたいと思っています。写真や原稿等をお寄せ下さい。特に県内の山の写真などのページを作りたいと考えています。山そのものの写真、植物・動物の写真、登山風景の写真等ありましたら、データでご提供いただければと思います。あるいは個人山行の文・写真でも結構ですよ。



☆☆☆　あとがき　☆☆☆

- *ようやく、やっとのことで、支部報第2号を発行することができました。冷や汗ものでした。会員各位のご批評をいただければ幸いに存じます。*
- *まだまだ発展途上です。会員の皆様の熱意で，読んで楽しいものに仕上げていきたいと思います。*
- *また，楽しい企画のご提案，山行等の寄稿があればどしどしお寄せください。(カミジマ)*